

本日、こうして1964年東京五輪50周年記念イベントに参加できますことを大変光栄に存じます。本イベントの開催につき、ポルトガル・オリンピック選手協会のイニシアティブに感謝いたします。

「オリンピックは人類の持っている夢のあらわれである」とは、映画「東京オリンピック」を制作した市川崑監督の言葉です。

私は、当時、白黒テレビから流れてくる映像を見ながら熱狂し、テレビの前から離れられなかったことを、いまだ鮮明に記憶しています。1964年の東京オリンピックは、実に全ての日本人の夢であり、また日本の経済発展にとっても大きな転機となりました。さらに、同五輪は嬉しい知らせももたらしてくれました。柔道が、東京五輪から競技に加わったのです。今日、柔道は、疑いなく世界的なスポーツ競技となり、ポルトガルの柔道選手は世界的に知られる存在となっています。

東京オリンピックから56年、そして長野冬季五輪から22年、オリンピックが再び日本で開催されます。日本での五輪開催は、これで4回目となります。

これまでのオリンピックとの違いは、既存のインフラを最大限活用したコンパクトな、そして環境にやさしいオリンピックであるということです。この理念は、過去五輪を開催した都市の経験に基づくユニークな発想と日本のこれまでの先端技術の発展を活かそうとするものです。

日本政府及び東京都は、この壮大なイベントの準備と実現に向けて、世界中から訪れる競技者や訪問者に可能な限りベストなコンディションを提供し、最大限の安全と利便性をもってお迎えするべく努めています。

本年5月の安倍総理のポルトガル訪問の際に共同コミュニケが発表され、東京五輪及びパラリンピックの開催に向け、日ポ両国がスポーツを通じた平和と発展への貢献を行う旨強調されておりますところ、皆様方のご協力を賜れば大変有難く存じます。

日本は今一度、人類の夢を実現し、日本そして世界に更なる元気をもたらしたいと思っております。

2020年、東京で多くのポルトガルの選手とお会いできますことを楽しみにしております。

(了)